

内閣総理大臣
自由民主党総裁

高市早苗



元財務副大臣／内閣府副大臣
自由民主党埼玉県第九選挙区支部長

大塚 拓

日本を、前に動かす。

高市内閣が発足し、世の中が前に向かって動き始めています。日本には、いま、なさなければならぬ課題が目白押しです。

2040年、団塊ジュニア世代（私もそうです）が高齢者になり、社会保障の負担はピークを迎えます。その頃までに、支え手となる労働力人口は約900万人減少すると見込まれます。生活に苦しむ子育て世代、現役世代の支援の充実が求められています。同時に、いまの現役世代もいずれ高齢世代となります。医療、介護、福祉の水準や、年金の所得代替率を大きく切り下げることなく高齢化のピークを乗り越えるため、これからの社会の在り方と真剣に向き合い、地域で安心して暮らしていける基盤を守らなければなりません。

悪化を続ける安全保障環境への対応も、逃げることでできない課題です。世界はすでに「平時」から「戦時」に移行していると指摘されています。アメリカの力で戦後の国際秩序を維持することはもはや不可能との認識から、トランプ政権は新秩序を志向し、同盟国にも負担の共有を求めています。東アジアで大きな戦争が起きてしまったら、日本にも否応なく大きな被害が及びます。実際に軍事力の行使に向けて着々と準備を進める国がある以上、私たち自身の問題としてこれに向き合わなくてはなりません。

これらの課題に対処していくために不可欠なのは、財政負担を支え切る経済力です。いま、そのために必要な投資が動

き始めています。国だけではなく、自治体財政も苦しくなっています。それは地方を支える国の力が落ちていくから。足下の物価高対策にとどまらず、2030年、2040年を見据えた経済・財政・金融政策が必要です。財政・金融市場のリスクを回避しながらも、確実に経済成長を達成するため、30年間日本を覆ってきた閉塞感を打ち破り、前を向いて進む時です。

難局が続きますが、必ず乗り越えられる。その信念のもと、政策・戦略を磨いて、明るく、前向きに。下を向いては乗り越えられる壁も乗り越えられませんか。私自身も、これまでの経験を活かし、この国のため、そして支えていただいている地元の皆様のため、なさねばならない仕事如山のようにあります。どうか皆様のお力をお貸しください。必ず数多の壁を乗り越え、希望の未来を切り拓いてまいります。

自由民主党埼玉県第九選挙区支部長
前衆議院議員 大塚 拓



高市経済安保担当大臣に、インテリジェンス強化について政策提言をお渡ししました。

大塚拓のこれまでの活躍と実績



不老川の整備に83億円（後に増額）の予算を確保、災害が激甚化する中、大雨の度に大規模に溢れていた状況を大きく改善しました。



急激に悪化する安全保障環境に対応するため、党国防部会長として防衛力の抜本的強化を打ち出し、実現しました。



緊迫の度を増している、台湾海峡。台湾有事を想定した政策シミュレーションで、防衛大臣役を勤めました。



JR高麗川駅の自由通路と駅舎整備に道筋を付けました。長年の課題だった駅東西の往来の不便が、まもなく解消します。



在ロンドン日本大使館にて。日英伊戦闘機共同開発のレセプションで日本側を代表して挨拶。



財務副大臣として、各省庁から上がってきた予算の概算要求をとりまとめ、記者会見に臨んでいるシーン。



衆議院予算委員会の集中審議で、厚生労働省の問題に舌っぽ鋭く切り込んでいるシーン。



シンガポールのローレンス・ウォン首相と。実は首相とはハーバード大学で机を並べて学んだ仲です。



安倍総理主催晩餐会で、安倍総理、ドゥテルテフィリピン大統領(当時)を高市早苗総理とともに囲むレア写真。



狭山茶の振興に、議員連盟の事務局長として力を尽くしてきました。写真は首相官邸での新茶の献呈式。



内閣府副大臣に就任。規制改革、地方創生、消費者行政、公正取引委員会、子ども・子育て支援、NPO、沖縄・北方対策、北朝鮮拉致問題、領土問題、特定秘密など幅広い分野を担当しました。



「自分たちの街は、自分たちで守る」地域の安全の最後の砦である消防団の活動を応援してきました。写真は狭山市消防出初め式にて。



ムーミンバレーパークのオープニングセレモニー。開設から現在に至るまで、様々な形で応援してきました。



毛呂山町のお祭りで、皆様とおみこしを担いでいる一コマ。



越生駅東口の開設にも力を尽くしました。これにより、通勤・通学など駅の利用が格段に便利になりました。



英国のファロン国防大臣（当時）と、東アジア情勢、欧州情勢、今後の日英協力について議論を深めました。

大塚拓 プロフィール

大塚拓公式
ホームページ



Facebook



X



<政治家としての主な経歴>

衆議院議員（当選5回）
財務副大臣 / 内閣府副大臣 / 法務大臣政務官
衆議院安全保障委員長 / 自民党国防部会長（2期）
党法務部会長 / 党科学技術イノベーション戦略調査会副会長
茶業振興議員連盟事務局長 / 難聴対策推進議員連盟幹事長
日豪国会議員連盟事務局長 / 日本フィリピン友好議員連盟事務局長

<学歴・職歴>

慶應義塾大学法学部政治学科卒
米国ハーバード大学ケネディ行政大学院修了（公共政策修士）
東京三菱銀行（現三菱UFJ銀行）出身
大学で国際政治を学び、遠くない将来に世界の平和が揺らぐ時代が来ると確信。平和を守りきることに人生をかけようと、政治を志しました。経済を肌感覚で学ぶため、銀行に就職。留学して経済、外交・安全保障を研究し、政治の世界に飛び込みました。